

令和5年度寄附講座事業成果報告書

(徳島大学大学院医歯薬学研究部 実践地域診療・医科学分野)

1 概要

本寄附講座は、2015年11月-2020年3月までJA 徳島厚生連阿南医療センターにおいて、地域医療支援活動していた寄附講座「糖尿病・代謝疾患治療医学分野」を基盤として、発展改組の形をとって2020年4月1日に実践地域診療・医科学分野として発足しました。現在、支援診療科目とスタッフを拡充し、糖尿病などの生活習慣病・循環器疾患・血液疾患・消化器内科・外科疾患・乳腺および甲状腺疾患・放射線等画像診断に関して、阿南医療センターでの外来診療や病棟診療などの包括的な総合診療支援業務を実施しています。また同センター内に開設された阿南地域医療教育センターを拠点として、徳島大学の実習医学生・研修医および専攻医の効果的なトレーニングを実施し、将来の地域医療を担う若手医師育成や、臨床研究の推進を活動目標としています(下図)。



構成員は、特任教授 4 名(糖尿病・内分泌代謝内科学:栗飯原賢一、循環器・不整脈学:添木武、消化器外科学:吉川幸造、放射線医学:新家崇義)、特任准教授 4 名(糖尿病・内分泌代謝内科学:湯浅智之、同:乙田敏城、血液

内科学:中村信元、消化器内科学:河野豊)、特任助教 1 名(胸部内分泌腫瘍外科学:坂本晋一)、技術補佐員 2 名(上元良子、関根明子)で活動しており、具体的な本講座の主要業務としては以下の 5 つの点であります。

- ① 包括的な地域医療に必要な人材を育成するための研修方法の開発
- ② 限られた医療人材による効率的な地域医療のあり方に関する研究
- ③ 地域住民の生活習慣病やそれに関連する循環器疾患の発症進展予防のための臨床基盤研究
- ④ 地域での消化器疾患・血液疾患・内分泌腫瘍および各種癌患者の診断・治療技術向上のための研究
- ⑤ 救急を含む急性期医療における地域動向解析と適切な診療技術や診療システムの開発

2 教育面

(1) 卒前教育

徳島大学医学部医学科の学生に対して、各診療科における PBL チュートリアルコースの正副責任者として、コース運営にあたっています。また、クリニカル・クラークシップにおいては、徳島大学病院の外来・病棟実習で指導を行っています。地域医療学実習としては、新型コロナウイルス感染によるバーチャル実習から対面実習に戻すことになり、現在は 1 班 3 名ずつの受け入れ、回復期リハビリ病棟での実習および訪問看護同行実習を行っています。また、徳島大学病院でのクリニカルクラークシップ終了後の、指定学外実習、および選択実習についても医学科学生を受け入れ、診療グループの一員として内科系診療科および外科系診療科領域の実習(医学部生に対して、手術に実際に参加してもらい皮膚縫合などを行ってもらっています)や症例報告書の発表指導および早朝のミニレクチャーを実施しています。

(2) 卒後教育

徳島大学病院卒後臨床研修センターおよび徳島大学大学院医歯薬学研究部 血液・内分泌代謝内科学教室、消化器内科学教室、循環器内科学教室、胸部・内分泌・腫瘍外科学教室、消化器移植外科学教室、放射線医学教室と連携し、初期研修医の教育や臨床指導を大学病院および阿南医療センターにおいて実施しています。さらに毎週水曜日に阿南地域医療教育センターにおいて寄附講座スタッフと阿南医療センター若手医師で抄読会や症例検討会を実施しており、英語論文作成指導も個々に行なっています。

3 研究面

本講座では、徳島大学病院と阿南医療センターの診療を通じて、基礎および臨床面での各診療領域での病態解明と治療の開発研究を行うことを大きな使命としています。研究テーマとしては以下のものが進行中であり、研究論文発表も行いました。

＜糖尿病・内分泌代謝内科学分野＞

(1) 病態モデル動物及び臨床バイオマーカーの解析と糖尿病・代謝疾患関連合併症の発症機序解明

遺伝子改変動物を用いて、代謝・循環改善薬の介入による代謝変化や動脈硬化症の予防効果の検証や病態解明を行う他、受診患者さんの臨床サンプルや臨床データを解析することで、効果的な治療法の開発を目指しています。

① インスリン抵抗性関連疾患群におけるインスリン受容体切断の意義

インスリン作用が阻害されるインスリン抵抗性は、臨床医学的に糖尿病の病態を担う重要な要素であることが広く認められています。さらに、糖尿病との関連が深い疾患においてもインスリン抵抗性がそれぞれの病態に関わるとされていますが、その基盤となる共通の分子機構は見出されていません。これまで我々は独自の視点で新たなインスリン抵抗性メカニズムの同定とバイオマーカーとしての可溶性インスリン受容体の意義について検討してきており、糖尿病や妊娠中に認めるインスリン抵抗性に共通する分子基盤であることを見いだしてきました (Yuasa et al. BMJ Open Diabetes Res Care. 2021 Dec;9(2):e002467.). 現在、この分子機構が癌やアルツハイマー病・肥満・肝疾患といったインスリン抵抗性関連疾患群に広く関わっている可能性を検証しています。

② 糖尿病患者の非アルコール性脂肪肝疾患におけるヘパリンコファクターⅡ(HCⅡ)の意義

近年、非アルコール性脂肪肝疾患(NAFLD)の病態が注目されており、肝硬変や肝臓癌への進行が大きな問題になっており、NAFLD の罹病率は特に糖尿病患者で高率であることから、その進展や防御に関わる因子の解析は、重要な臨床課題となっています。我々は、動脈硬化抑制効果やインスリン抵抗性抑制効果を有する HCⅡ が、糖尿病患者における NAFLD の進展予防に寄与するという仮説を立て、305 例の患者を対象に検証し、英語論文として誌上発表致しました (Hara et al. J Atheroscler Thromb. 2023 Aug 1;30(8):871-883.)。

③ 慢性腎臓病と自然免疫の関係

(基礎) 慢性腎臓病の発症要因となる腎組織における自然炎症反応の亢進には、自然免疫を担当するミエロイド系細胞のオートファジー障害が関与するとの仮説に則り、ミエロイド系細胞特異的にオートファジー機能異常を来す遺伝子改変マウスでの解析を進めています。当該マウスに脂肪酸結合アルブミンを投与する尿細管障害モデルを解析し、自然免疫担当細胞におけるオートファジーは、脂肪酸負荷による尿細管障害を和らげる役割を果たしていることを見出しています。現在、オートファジーによる炎症性タンパク質の分泌制御機構を解析し、論文投稿の準備中です。

(臨床) SGLT2 阻害薬の大規模臨床試験の結果では、糖尿病性腎臓病(DKD)症例の蛋白尿減少効果が認められており、レニン・アンジオテンシン系阻害薬治療下でも、SGLT2 阻害薬が蛋白尿を減少させる可能性が示されています。SGLT2 阻害薬が抗炎症効果を発揮し蛋白尿減少効果をもたらすことを見出し、その結果を英語論文として誌上発表致しました (Otoda et al. Diabetes Ther. 2024 Jan;15(1):127-143)。ミトコンドリア由来活性酸素は糖尿病の様々な病態に関与していると考えられています。現在は、2 型糖尿病患者に対するイメグリミンとエンパグリフロジンの抗酸化ストレス作用を解析しています。

④ AGE Reader を用いた AGEs 指標と糖尿病関連腎臓病の関係

糖尿病疾患などで加速的に生成が亢進される AGEs:最終糖化生成物(Advanced Glycation Endproducts)は様々な糖尿病関連臓器合併症に関与することが知られています。我々は非侵襲・短時間に AGEs を測定する AGE Reader mu を用いて、蛍光分光方式で、皮膚・皮下の血管壁に蓄積される AGEs を Autofluorescence (AF/自己蛍光量)として検出し、その数値が 2 型糖尿病患者の腎尿細管障害を反映することを英語論文として誌上発表しました (Yamagami et al. Biomedicines. 2023 Nov 10;11(11):3020. doi: 10.3390/biomedicines11113020.)。

(2) 生活習慣病患者における早期動脈硬化病変の検出と治療介入の効果検証

受診患者さんの早期動脈硬化症の病態検出目的と心血管合併症発症や予後予測の強力なエビデンスを有する血管内皮機能検査(FMD)の積極的な導入を行い、FMD の正常化を目指した病態解析や治療法の開発を

目指しています。我々は、セミオートマチックの FMD 測定装置を阿南医療センターと徳島大学病院に導入し、血管内皮機能の改善や悪化に関する臨床指標の解析を行っており、FMD 検査の結果を患者さん個々の診療にフィードバックすることで、生活習慣是正に活用しています。また FMD による腎機能予後予測に関する検討を行い、英語論文として誌上発表しました (Masuda et al. J Atheroscler Thromb. 2023 Nov 1;30(11):1727-1741.)。

(3) 体組成解析を用いた骨格筋代謝および機能異常症における病態解析

高齢化社会において、フレイルは大きな臨床課題となっています。そこで主として糖尿病患者を対象に、骨格筋代謝および機能異常症としてのサルコペニア・プレサルコペニア・ダイナペニアに関わる臨床指標の診断のために、InBody S10®による生体電気インピーダンス法(BIA: Bioelectrical Impedance Analysis)を用いた体組成解析を行なっています。日常診療において BIA 法の検査結果レポートを用いた患者指導を行ない、フレイル予防に注力しています。また骨格筋異常のみならず、今回 BIA で測定した位相角と体外細胞水分比が糖尿病患者における Hgb および Hct に独立して相関することを見出し、英語論文として誌上発表しました (Hori et al. Heliyon. 2023 Mar 21;9(4):e14724. doi: 10.1016/j.heliyon.2023.e14724.)。また副腎アンドロゲンである DHEAS が、男性 2 型糖尿病患者の骨格筋機能異常に関して抑制的に関与することを見出し、英語論文として誌上発表しました (Yasui et al. Metabolites. 2023 Nov 3;13(11):1129. doi: 10.3390/metabo13111129.)。

＜血液内科学分野＞

(1) 各種疾患における口腔内免疫・細菌叢と各種臨床指標の相関に関する検討

近年、常在細菌叢と各種疾患との関連が注目されている。口腔内には多数の常在菌が生息していると同時に、唾液が消化液として分泌されるものの抗菌物質を多数含んでいることが知られています。このような常在細菌叢や唾液中の抗菌物質と、各種疾患または病態との関連はほとんど知られていません。本研究では、当院で診療中の患者において唾液を採取し、各種臨床指標やその経過に如何に影響を与えるのかを検証しています。

(2) 造血管器疾患における病態関連因子およびバイオマーカーの探索

造血管器腫瘍において、化学療法その他の再発例や初回治療療法抵抗例などは依然予後不良であるため、病態に関連する因子の抽出は喫緊の課題です。また非腫瘍性疾患も多く存在し、ステロイドなどの免疫抑制療法が試みられますが、治療反応は個体差が大きく、事前に予測が可能なバイオマーカーの同定も求められています。造血管器疾患の患者の検体を収集し、徳島大学血液内科の検体と併せて、新規の病態関連因子や治療の反応性予測因子、および予後因子を見いだす検討を行っています。

(3) 新型コロナワクチンの有効性・安全性の検討

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、人々の生命や生活、経済を脅かしている。抜本的解決策のひとつとして、ワクチン接種が世界中で開始されたが、臨床応用された世界初の mRNA ワクチンであり、その有効性、安全性は十分には知られていません。新型コロナウイルスに対する抗体および製剤に含まれるポリエチレングリコールに対する抗体やその持続期間、また COVID-19 感染予防効果、ワクチンの副反応について検討中です。

＜循環器内科学分野＞

臨床医として強い問題意識を持ち、ヒトでの臨床研究を推し進め、臨床での問題点を基礎研究により理論的に解明していくという姿勢で、不整脈を中心とした循環器領域の基礎。臨床研究を行っています。

(1) 慢性炎症としての心房細動の病態解明と治療法開発

複数の凝固因子(プロテアーゼ)が血栓形成のみならず、さまざまな細胞に発現するプロテアーゼ活性化受容体(PAR)を介して、炎症反応にも関与することが知られています。なかでも PAR-2 は主に Xa 因子(FXa)によって活性化されることが報告されています。我々は、FXa-PAR2 経路が心房細動発症に寄与していることを PAR2 欠損マウスを用いて生理学的・生化学的に証明しました。さらに、PAR-2 のリガンドである経口 Xa 阻害薬が抗炎症作用を介して心房細動発症を抑制しうることを自然高血圧ラットを用いて証明しました(論文掲載予定)。また、近年、動脈硬化などの基盤として慢性炎症が関与していることが知られており、なかでも病原体センサーとしての Toll-like 受容体(TLR)の関与が示唆されています。心房細動の基盤としても慢性炎症が関わっているとされていますが、TLR の関与などその詳細は不明のままです。そこで、我々は TLR9 欠損マウスを用いた基礎的アプローチ、心房細動アブレーション症例のサンプルを用いた臨床的アプローチの両面により、TLR9 シグナルによる心臓リモデリングと心房細動発生メカニズムの解明を進めています(研究成果の一部は学会・論文として発表)。

(2) 心房細動発症の新たな予測因子の検討

心房細動は頻度の高い不整脈でありその予防対策が肝要でありながら、簡便で有用性の高い予測因子はありません。我々は、臨床背景、ホルター心電図指標、心エコー指標を総合的に評価した複合スコアにより心房細動発症の予測が可能かを検討しています。現在までの検討では、年齢、上室性期外収縮 1 日総数、最大 RR 間隔、左房径が独立して心房細動発症のリスクを高めることが判明し、これらの因子を点数化したスコアが高くなるにしたがって心房細動発症の発症率は高くなることを見出しました(論文にて発表)。さらに、12 誘導心電図から右・背中側誘導を算出した導出 18 誘導心電図という新技術を用いれば、既存の 12 誘導心電図の P 波より心房の状態を正確に推測できる可能性があるかと推察されますが、過去にそのような報告はありません。そこで、我々は導出 18 誘導心電図の P 波と心房細動発症や左心房サイズとの関連を検証しています。

(3) 心房細動・心不全患者におけるサルコペニアと各種臨床指標の相関に関する検討

高齢者に見られる病的な筋肉量の低下はサルコペニアと称され、生理的予備能が低下するフレイルの状態につながるとともに、認知症や、心血管病、腎障害、貧血、免疫力低下などの疾患と密接な関係があることが明らかになってきました。しかしながら、サルコペニアと心房細動の発症・進展、認知症、心不全との関連については十分に解明されていません。そこで、心房細動、心不全にて診療中の患者における体組成測定を行うことで、サルコペニアの頻度の調査を行い、骨格筋量が各種臨床指標やその経過に如何に影響を与えるのかを検証しています。成果は国際学会でも発表し、現在英語論文の投稿準備中です。

<消化器内科学分野>

脂肪肝モデルマウスを用いた健康食品の治療効果検討

本邦では 40 歳代の 2 人に 1 人の男性は検診時に脂肪肝と診断されるが、この脂肪肝は生活習慣の改善以外に有効な治療薬はまだ存在しません。高脂肪食を給餌させたマウスに抗酸化ストレス作用のあるエゾウコギの根の抽出物を給餌すると、脂肪肝や線維化の改善効果を認めました。本年度はその詳細な解析を検討して、脂質代謝を調節する転写因子に影響を及ぼすことが分かりました。さらに腸内細菌において乳酸菌と酪酸菌の増加を認めたことから、生活習慣病のみならず健康寿命の延伸にも寄与する可能性がありさらなる詳細な基礎研究を進めております。

<放射線医学分野>

(1) 画像診断ナショナルデータベース実現のための研究開発

日本医学放射線学会は、放射線医学が国民の健康と福祉の増進に寄与するために ICT(情報通信技術)化を推進し、ビッグデータや人工知能を活用した医療の構造改革を実施しています。その一つとして2016年より日本医用画像データベース(J-MID)が始動していますが、2021年からは徳島大学も北海道大学、愛媛大学とともに新生 J-MID に加わり、現在は全国の主要 16 医療施設の新体制で大規模画像診断データベースの構築を行っています。画像診断検査装置や検査オーダー、撮影、診断のそれぞれに応じた医療技術、医療安全、医療被ばく低減、医療の質の向上を目的とし、人工知能の開発や発展のための研究開発を目指しながら、現在も全国的な画像データベースの構築を進めています。

(2) テクスチャ解析を用いた卵巣腫瘍や軟部腫瘍の MRI 画像および PET/CT 画像の検証

卵巣腫瘍や軟部腫瘍の術前に良性・境界悪性・悪性など組織型の画像診断の精度には限界があり、新たな画像診断法の開発が望まれています。本研究では徳島大学病院産婦人科と整形外科と共同で、術前の MRI や PET/CT などの画像診断において、画像の質感を数値化できるテクスチャ解析やダイナミック PET/CT などの新たな撮像法を用いることで、卵巣腫瘍や軟部腫瘍の術前診断精度の向上が図れるかどうかを検証することを目指し、症例登録およびデータ収集を行っています。

<胸部・内分泌・腫瘍外科学分野>

(1) 肺の再生に向けた、iPS 細胞から誘導した BASCs による細胞移植の可能性

幹細胞とは自己複製能と様々な細胞に分化する能力(多分化能)を持つ特殊な細胞で、この2つの能力により発生や組織の再生などを担う細胞であると考えられています。我々が注目した BASCs は肺の修復、再生中の自己複製を伴う肺上皮幹細胞で Club cell、1 型および 2 型肺胞上皮細胞を含む複数の細胞系統に分化します。マウスから BASCs を単離する方法は確立されていますが、得られる細胞数が非常に少ないため我々は iPS から BASCs を誘導することを研究してきました。その結果 iPS から BASCs 細胞を誘導し、気管障害を引き起こすナフタレンモデルを用いて Club cell が修復したことを示すことに成功しました。ただ、iPS 由来の BASCs が生体の BASCs のように正常に機能したかについてはわかっておらず、現在はその証明をテーマに研究を行っています。我々は iPS 由来の BASCs 細胞を用いて 3D 培養を行い Organoid の作成に成功しました。そして 1 型/2 型肺胞上皮細胞、Club 細胞、BASCs 細胞、Bipotential 細胞が形成されていることを確認しました。続いて Bulk RNA sequence を用いて iPS 細胞、分化細胞、iPS 由来の BASCs の比較を行い、分化に至るまでのメカニズムを解析し論文投稿中です。

(2) 間葉系幹細胞による気管支の修復メカニズムの解明 -iPS 細胞による気管支断端瘻予防-

(3) ILD-GAP index を用いた間質性肺炎合併肺癌に対する治療戦略 -予後因子に基づいた層別化治療-

間質性肺疾患は肺癌を高率に合併し 15%は悪性腫瘍で死亡するとされています。また、間質性肺炎自体も多くの場合は予後不良で、間質性肺炎の進行、特に急性増悪に伴う呼吸不全死も予後に影響するため通常の肺癌に比べて予後不良とされています。

実際の治療においても肺癌に対する治療を契機に誘発される致死的な間質性肺炎急性増悪が最大の問題点で、治療の制約となっています。放射線治療は原則禁忌と考えられ、抗癌剤治療もレジメンが制限されます。よって癌の根治性を考慮し、切除可能ならば手術が選択される場合が多いと考えられます。ただ、手術を選択する時には肺癌の病期のみならず間質性肺疾患そのものの病状を考慮し治療方針を選択しなければ術後の呼吸状態によって QOL 低下を招く可能性があります。そこで予後に影響を及ぼす臨床病理学的背景を検討し外科治療の個別化に関する研究を行いました。研究成果の一部は 2022 年に開催された第 39 回日本呼吸器外科学会学術集会、第 84 回日本臨床外科学会総会で発表を行い、論文投稿中です。また、間質性肺炎の自然予後が期

待できる群での追加解析を行い、胸膜浸潤が独立した予後不良因子であることを第 76 回胸部外科学会で発表を行いました。

(4) U-40 呼吸器外科医が高難度手術手技を習得するための取り組み

気管支・血管形成術や心嚢内血管処理といった高難度手術手技の習得は必須であります、若手呼吸器外科医の執刀機会は少ないです。特に症例数の限られた地方大学ではその傾向が顕著であり、高難度手術手技を効率良く習得するための質の高い教育をいかにして行うかが喫緊の課題となっています。そこで当科では Cadaver と生体ブタを用い、それぞれの特性を生かしたトレーニングを実施しており、その特性について述べます。

1) 未固定遺体を用いた Cadaver トレーニング:

未固定遺体の最大の利点は、臓器の弾力性、神経・血管の分布や走行が生体に近いことにあることです。気管支を把持した感触、運針が実際の手術と同じ感触で、口径差を調節した気管支形成の手技も実施可能で、解剖学的位置関係の把握が極めて重要な Superior sulcus tumor や心嚢内肺血管処理を想定したトレーニングにも有用であります。

2) 生体ブタを用いたトレーニング:

本学では獣医師が常駐した生体ブタのトレーニングラボを有しています。血管系が虚脱して脆弱な Cadaver ではリアリティを再現できない血管形成手技のトレーニングに最適です。

当施設は Cadaver と生体ブタ両方のトレーニングラボを有する稀な施設であり、それぞれの特性を余すことなく活用し、繰り返しトレーニングを行うことで症例数の少なさを補完しています。トレーニングで得た知識・技術を共有して個々がレベルアップすることで、高難度の手術手技を安全に提供できるようになると考え取り組んでおり、以上を第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会で報告し、その取り組みについて論文も投稿しております。U-40 呼吸器外科医のトレーニングプログラムを構築し、まずは関連施設へ参加可能範囲を拡大する方針です。

3) 区域切除

近年、肺がん診断精度の進歩によって小型病変の占める割合が増加しております。そして小型肺がんにおける区域切除の優位性を示した JCOG0802/WJOG4607L の結果を受け、今後ますます区域切除が増加すると予想され、実際当院でも区域切除を選択する症例は増加しております。今後の呼吸器外科医は肺葉切除と同等の根治性を担保しつつ、呼吸機能を可能な限り温存するための高度な技術と治療戦略が要求されます。第 98 回中国四国外科学会で区域切除術のシンポジウムを開催し、各施設の創意工夫について議論を行い、当施設からは複雑区域切除の周術期成績を検討し、術前のプランニングと手術手技の工夫について報告しました。

<学会発表>

国際学会

1	Bando R, Wakatsuki T, Yamaguchi K, Kawabata Y, Takahashi T, Saijo Y, Kadota M, Matsuura T, Ise T, Kusunose K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Akaike M, Sata M: Two-year outcomes of drug-coated balloon only strategy for de novo lesions in large coronary vessels. ESC2023, Amsterdam, 25–28 August 2023
2	Yamaguchi N, Kusunose K, Hirata Y, Nishio S, Takahashi T, Saijo Y, Kadota M, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M: Improved Pressure-Flow Relationship With Sacubitril/Valsartan: A 6-min Walk Stress Echocardiographic Study AHA2023, Philadelphia, 10–13 November 2023
3	Nagano K, Takahashi T, Wakatsuki T, Zheng R, Saijo Y, Kadota M, Kawabata Y, Matsuura T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Sata M: Long-Term Outcome of Stentless Coronary Intervention With Drug-Coated Balloon in Patients With High Bleeding Risk. AHA2023, Philadelphia, 10–13 November 2023

4	Hiroki Yamagami, Tomoyo Hara, Yukari Mitsui, Shiho Masuda, Kiyoe Kurahashi, Toshiki Otoda, Tomoyuki Yuasa, Akio Kuroda, Itsuro Endo, Munehide Matsuhisa, Masahiro Abe and Ken-ichi Aihara : Analysis of clinical factors involved in AGE accumulation in people with type 2 diabetes, IDF-WPR Congress 2023/15th Scientific Meeting of AASD, Jul. 2023.
5	Yosuke Kaneko, Saya Yasui, Minae Hosoi, Akihiro Tani, Hiroki Yamagami, Hiroyasu Mori, Tomoyo Hara, Yukari Mitsui, Kiyoe Kurahashi, Sumiko Yoshida, Shingen Nakamura, Akio Kuroda, Toshiki Otoda, Tomoyuki Yuasa, Itsuro Endo, Takeshi Soeki, Munehide Matsuhisa, Masahiro Abe and Ken-ichi Aihara : Dehydroepiandrosterone sulfate and skeletal muscle disorders in patients with type 2 diabetes, IDF-WPR Congress 2023/15th Scientific Meeting of AASD, Tokyo, Jul. 2023.
6	Yumi Kuwamura, Kiyoe Kurahashi, Sumiko Yoshida, Hiromichi Yumoto, Maki Hosoki, Yukihiro Momota, Ken-ichi Aihara, Masuko Sumikawa, Hirokazu Uemura, Munehide Matsuhisa and Itsuro Endo : Evaluation of Nursing Educational Material on Oral Health Behavior of Persons with Diabetes: Part 3 — Physicians' Survey, International Diabetes Federation Western Pacific Congress 2023 /15th Scientific Meeting of Asian Association for the study of Diabetes, Kyoto, Japan, Jul. 2023.
7	Seiji Tsuji, Kensuke Mori, Yosuke Kaneko, Saki Kawata, Shingen Nakamura, Toshiki Otoda, Tomoyuki Yuasa and Ken-ichi Aihara : Association between serum dehydroepiandrosterone sulfate levels and annual eGFR changes in people with type 2 diabetes, IDF-WPR Congress 2023/15th Scientific Meeting of AASD, Jul. 2023.
8	Tomoyo Hara, Hiroki Yamagami, Yukari Mitsui, Shiho Masuda, Kiyoe Kurahashi, Toshiki Otoda, Tomoyuki Yuasa, Akio Kuroda, Itsuro Endo, Munehide Matsuhisa, Masahiro Abe and Ken-ichi Aihara : Clinical factors and glycemic control in Japanese people with type 2 diabetes treated with weekly Dulaglutide at a dose of 0.75 mg, IDF-WPR Congress 2023/15th Scientific Meeting of AASD, Jul. 2023.
9	Yutaka Kawano, Maki Tanaka, Yasushi Sato, Tetsu Tomonari, Hironori Tanaka, Takeshi Mitsuhashi, Tetsuji Takayama; ACTIVATION OF HNF4 α PATHWAY BY TREATMENT WITH BOTANICAL PLANT, ACANTHOPANAX SENTICOSUS, AMELIORATES STEATOHEPATITIS IN HIGH-FAT FED MICE MODEL. Digestive Disease Week (DDW) 2023, May 6–9, 2023. Chicago

国内学会

1	山田 博胤、大櫛 祐一郎、楠瀬 賢也、ゼング ローバート、高橋 智紀、西條 良仁、西尾 進、平田 有紀奈、添木 武、佐田 政隆:乳癌の薬物療法における心エコー図検査を用いた心毒性サーベイランスの有用性、シンポジウム9「腫瘍循環器アップデート」 第37回日本心エコー図学会学術集会 2023年4月21日(金)–23日(日) 岐阜
2	ゼング ローバート、門田 宗之、大谷 啓太、折野 逸人、根岸 佑典、高橋 智子、坂東 遼、瀬野弘光、高橋 智紀、西條 良仁、川端 豊、松浦 朋美、伊勢孝之、楠瀬 賢也、山口 浩司、八木 秀介、山田 博胤、添木 武、若槻 哲三、佐田 政隆:A Case of Biopsy-Proven Giant Cell Myocarditis, KSE Case Conference(KCC) 第37回日本心エコー図学会学術集会 2023年4月21日(金)–23日(日) 岐阜
3	平田 有紀奈、山田 博胤、山口 夏美、森田 沙瑛、西尾 進、高橋 智紀、西條 良仁、楠瀬 賢也、添木 武、佐田 政隆. マラソンと左房機能:スポーツ後の Cardiac fatigue とは 第96回日本超音波医学会学術集会、2023年5月27日(土)–29日(月) 大宮
4	添木 武:心電図アカデミー2 基本となる 12 誘導心電図判読のための心電図レッスン 12 誘導心電図を判読するうえでのポイント:特発性病態編 第69回日本不整脈心電学会学術集会 2023年7月6日(木)–9日(日) 札幌
5	Takahashi T, Soeki T, Matsuura T, Sata M:NAFLD SCORE PREDICTS THE ONSET OF ATRIAL FIBRILLATION 第69回日本不整脈心電学会学術集会 2023年7月6日(木)–9日(日) 札幌
6	添木 武:心臓突然死予防に対する着用型自動除細動器(WCD)の有用性、ランチョンセミナー1 心臓突然死予防に対するWCDの役割 ～エビデンスと実臨床から再考する～ 第3回日本不整脈心電学会 中国・四国支部地方会 2023年10月28日(土) 広島
7	松浦 朋美、高橋智子、添木 武、佐田政隆:ICD の ST モニタリング機能が診断の一助になった1例、Oral Session 1 VT/VF/VPC 第3回日本不整脈心電学会 中国・四国支部地方会 2023年10月28日(土) 広島

8	高橋 智子、添木 武、松浦朋美、佐田政隆:Mahaim 束関連上室頻拍が疑われた wide QRS tachycardia の 2 例、Best Abstract Award Session 第 3 回日本不整脈心電学会 中国・四国支部地方会 2023 年 10 月 28 日(土) 広島
9	八木 一成、西條 良仁、長野 紘平、折野 逸人、吉田 直史、高橋 智子、Robert Zheng、坂東 遼、高橋 智紀、原 知也、門田 宗之、川端 豊、松浦 朋美、伊勢 孝之、山口 浩司、八木 秀介、山田 博胤、添木 武、若槻 哲三、佐田 政隆:AL および ATTR 心アミロイドーシス間のエコー図検査的特徴の相違に関する検討、若手研究者奨励賞(YIA)セッション 第 123 回日本循環器学会四国支部地方会 2023 年 12 月 2 日(土) 香川
10	Ryo Bando, Koji Yamaguchi, Tetsuzo Wakatsuki, Yutaka Kawabata, Tomonori Takahashi, Hayato Orino, Issei Yagi, Tomoko Takahashi, Robert Zheng, Yoshihito Saijo, Tomoya Hara, Muneyuki Kadota, Tomomi Matsuura, Takayuki Ise, Shusuke Yagi, Hirotsugu Yamada, Takeshi Soeki, Masataka Sata Predictors of Late Lumen Enlargement after Drug Coated Balloon Angioplasty for de Novo Coronary Lesions 第 88 回日本循環器学会学術集会 2024 年 3 月 8 日(金)-10 日(日) 神戸
11	Munkhtsetseg Tserensonom, Shusuke Yagi, Takayuki Ise, Yutaka Kawabata, Muneyuki Kadota, Tomoya Hara, Kenya Kusunose, Koji Yamaguchi, Hirotsugu Yamada, Takeshi Soeki, Tetsuzo Wakatsuki, Masataka Sata High Serum Lipoprotein(a) Level is a Risk Factor of Poor Prognosis after Transcatheter Aortic Valve Implantation 第 88 回日本循環器学会学術集会 2024 年 3 月 8 日(金)-10 日(日) 神戸
12	井上 雄介、原田 武志、小田 明日香、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、丸橋 朋子、高橋 真美子、藤井 志朗、中村 信元、三木 浩和、安倍 正博:骨髄腫細胞の内在的および外因子による BCMA 発現制御機構 日本骨髄腫学会学術集会 2023 年 5 月
13	原田 武志、住谷 龍平、原 倫世、井上 雄介、中上 絵美子、天真 寛文、小田 明日香、大浦 雅博、曾我部 公子、丸橋 朋子、高橋 真美子、藤井 志朗、中村 信元、三木 浩和、日浅 雅博、寺町 順平、菊池 次郎、古川 雄祐、安倍 正博:骨髄腫の進展における可溶性 SLAMF7 による炎症惹起の役割 日本骨髄腫学会学術集会 2023 年 5 月
14	三木 浩和、高成 広起、柳谷 伸一郎、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、丸橋 朋子、原田 武志、藤井 志朗、中村 信元、坂東 良美、常山 幸一、安倍 正博:ラマン分光法を用いた AL アミロイドーシスの新規迅速診断法の開発 日本骨髄腫学会学術集会 2023 年 5 月
15	住谷 龍平、中村 信元、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、丸橋 朋子、原田 武志、藤井 志朗、三木 浩和、安倍 正博:当院での再発難治性 AL アミロイドーシスに対する DaraCyBorD 療法の効果と安全性 日本骨髄腫学会学術集会 2023 年 5 月
16	住谷 龍平、中村 信元、林 成樹、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、原田 武志、藤井 志朗、三木 浩和、東 航平、安倍 正博:Lipiodol でのリンパ管造影により難治性乳糜腹水が軽快した濾胞性リンパ腫 日本血液学会中国四国地方会 2023 年 3 月
17	堀 太貴、石田 晃基、稲葉 香織、稲葉 圭佑、金子 遙祐、川人 圭祐、細木 美苗、森 建介、影治 照喜、浦岡 秀行、栗飯原 賢一、中村 信元: 非がん在宅療養患者の予後予測についての検討 日本緩和医療学会中国四国地方会 2023 年 7 月
18	菅崎 幹樹、中村 信元、新井 慎平、漆原 南実、寺本 継脩、秦 真公人、井上 雄介、中尾 隆之、西岡 安彦、佐田 政隆: 新規変異 B β Cys76Phe を伴った低フィブリノゲン血症の 1 症例 日本検査血液学会学術集会 2023 年 7 月
19	新居 寛子、三木 浩和、高橋 真美子、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、丸橋 朋子、原田 武志、藤井 志朗、安倍 正博、中村 信元、岩佐 武、西小森 隆太: 周期性の発熱、胸背部痛をきたした家族性地中海熱の女性例 AYA 世代患者における多職種連携の重要性 徳島医学会学術集会 2023 年 8 月
20	明石 和子、今井 芳枝、中村 信元、西條 早希、前田 悠作、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、原田 武志、藤井 志朗、三木 浩和: 治療過程にある再発・難治性造血器腫瘍患者が捉えるアドバンス・ケア・プランニング 第 61 回日本癌治療学会学術集会 2023 年 10 月
21	中村 信元、手束 宏明、山上 圭、和泉 唯信、西條 早希、前田 悠作、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、藤井 志朗、原田 武志、三木 浩和: 免疫再構築症候群により急速な経過で死亡に至った HIV 関連進行性多巣性白質脳症の一剖検例 日本エイズ学会学術集会 2023 年 12 月
22	堀 太貴、細木 美苗、森 健介、村井 純平、乙田 敏城、湯浅 智之、栗飯原 賢一、滝下 誠、中村 信元: 生活習慣病患者におけるヘモグロビン値と関連因子の検討、第 85 回日本血液学会学術集会 2023 年 10 月

23	原田 武志、小田 明日香、住谷 龍平、井上 雄介、原 倫世、大浦 雅博、曾我部 公子、丸橋 朋子、高橋 真美子、藤井 志朗、中村 信元、三木 浩和:1q増幅骨髓腫微小環境での SLAMF7 が介在する炎症ネットワーク, 第 85 回日本血液学会学術集会 2023 年 10 月
24	三木 浩和、高成 広起、柳谷 伸一郎、西條 早希、前田 悠作、住谷 龍平、大浦 雅博、曾我部 公子、高橋 真美子、丸橋 朋子、原田 武志、藤井 志朗、中村 信元、板東 良美、常山 幸一、安倍 正博: ラマン分光法と主成分分析を用いた心アミロイドーシスに対する新規迅速診断法, 第 85 回日本血液学会学術集会 2023 年 10 月
25	村井 純平、中村 信元、辻 誠士郎、小居 浩之、山下 理子、上原 久典、滝 下誠: 著明な腹水貯留と腎機能障害で発症し、リツキシマブと腹水排液が奏功した Fluid Overload-associated Large B cell lymphoma と思われた一例, 第 129 回日本内科学会四国地方会 2023 年 7 月
26	新家 崇義, PET を用いた肺癌画像診断と今後の展望, 第 266 回徳島医学会学術集会, 2023 年 2 月 12 日
27	廣島 由夏、新家 崇義、生島 仁史、音見 暢一、大塚 秀樹、外礪 千智、久保 亜貴子、川中 崇、高木 靖、原田 雅史. 転移性脳腫瘍に対する定位放射線照射後の画像所見, 第 82 回日本医学放射線学会総会, 2023 年 4 月 13 日-15 日.
28	新家 崇義、廣島 由夏、松下 知樹、三橋 遼太、新井 悠太、苛原 早保、音見 暢一、久保 典子、大塚 秀樹、原田 雅史. 悪性リンパ腫の臨床診断におけるダイナミック PET/CT, 第 82 回日本医学放射線学会総会, 2023 年 4 月 13 日-15 日.
29	音見 暢一、大塚 秀樹、久保 典子、東 航平、岩本 誠司、新家 崇義、原田 雅史. リンパの流れを読む, 第 82 回日本医学放射線学会総会, 2023 年 4 月 13 日-15 日.
30	岡田 直子、音見 暢一、大塚 秀樹、高尾 正一郎、新家 崇義、原田 雅史. 腫瘍性骨軟化症の原因腫瘍検索にソマトスタチン受容体シンチグラフィが有用であった一例と, FDG PET/CT が有用であった一例, 第 4 回日本核医学会中国・四国支部会, 2023 年 7 月 22 日.
31	新家 崇義, マルチモダリティによるじん肺の画像診断, 第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2023 年 9 月 15 日-17 日.
32	音見 暢一、三橋 遼太、土岐 俊一、松下 知樹、新家 崇義、大塚 秀樹、原田 雅史. FDG PET/CT 検査が病変の進展範囲の評価に有用であった上肢偽性筋原性血管内皮腫の 1 例, 第 51 回断層映像研究会, 2023 年 10 月 6 日-7 日.
33	松下 知樹、音見 暢一、大塚 秀樹、新家 崇義、松崎 健司、原田 雅史. 混合型肝癌を生じた Fontan associated liver disease (FALD) の一例, 第 51 回断層映像研究会, 2023 年 10 月 6 日-7 日.
34	新家 崇義、松下 知樹、音見 暢一、久保 典子、原田 雅史、乾 宏彰、吉田 加奈子、西村 正人、岩佐 武、新家 朱理、坂東 良美、上原 久典. 卵巣腫瘍における Dynamic F-18 FDG PET/CT の初期経験, 第 139 回日本医学放射線学会中国・四国地方会, 2023 年 12 月 8 日-9 日.
35	平岡 淳一郎、新井 悠太、岩本 誠司、岡田 直子、松下 知樹、廣島 由夏、新家 崇義、原田 雅史、大豆本 圭、楠原 義人、曾我部 公子、藤井 志朗. von Willebrand 病により術後止血に難渋した 1 例, 第 139 回日本医学放射線学会中国・四国地方会, 2023 年 12 月 8 日-9 日.
36	吉川 幸造、島田 光生、徳永 卓哉、中尾 寿宏、西 正暁、高須 千絵、柏原 秀也、和田 佑馬、良元 俊昭. 胃全摘出術における術後パスの有用性—PSM による解析—日本消化器外科学会 2023 函館, 2023 年 7 月
37	吉川 幸造、島田 光生、徳永 卓哉、中尾 寿宏、西 正暁、柏原 秀也、高須 千絵、和田 佑馬、良元 俊昭. MIS による胃全摘 OrViI 法におけるピットフォールとトラブルシューティング, 胃癌学会 95, 札幌, 2023 年 2 月
38	吉川 幸造、島田 光生、高須 千絵. 進行胃癌に対するロボット支援胃切除術の有用性, 消化器病学会, 10, 長崎, 2023 年 4 月
39	吉川 幸造、島田 光生、徳永 卓哉、中尾 寿宏、西 正暁、柏原 秀也、高須 千絵、和田 佑馬、良元 俊昭. 腹腔鏡下スリーブ状胃切除における多職種介入周術期管理の有用性, 日本外科系連合学会学術集会 48, 横浜, 2023 年 6 月
40	吉川 幸造、島田 光生、徳永 卓哉、中尾 寿宏、西 正暁、高須 千絵、柏原 秀也、和田 佑馬、良元 俊昭. 腹腔鏡下胃癌手術における術前栄養リハビリ介入の有用性, 癌治療学会 61, 横浜, 2023 年 10 月

41	吉川 幸造, 島田 光生, 徳永 卓哉, 中尾 寿宏, 西 正暁, 柏原 秀也, 高須 千絵, 和田 佑馬, 良元 俊昭, 胃全摘 OrViI 法におけるピットフォールとトラブルシューティング. 内視鏡外科学会 36. 横浜 2023 年 12 月
42	堀 太貴, 栗飯原 賢一, 石田 晃基, 稲葉 香織, 稲葉 圭佑, 金子 遥祐, 川人 圭祐, 別宮 彰起, 細木 美苗, 森 建介, 伊丹 加奈子, 勝瀬 昌代, 花岡 賀美, 影治 照喜, 浦岡 秀行, 中村 信元: 非がん在宅療養患者における予後予測指標の有用性についての検討, 第 268 回徳島医学会学術集会, 2024 年 3 月.
43	三宅 南帆, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の推定塩分摂取量に関わる臨床因子解析, 日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会, 2023 年 10 月.
44	辻 誠士郎, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 当院糖尿病患者における高血圧治療の現況, 日本糖尿病学会中国四国地方会第 61 回総会, 2023 年 10 月.
45	原 倫世, 山上 紘規, 三井 由加里, 倉橋 清衛, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 遠藤 逸朗, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者における血圧・血糖管理目標達成下での腎糸球体・尿管障害のリスク因子の検討, 第 45 回日本高血圧学会総会, 2023 年 9 月.
46	森 建介, 金子 遥祐, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 三宅 南帆, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の年間収縮期血圧変動に関連する臨床因子の解析, 第 45 回日本高血圧学会総会, 2023 年 9 月.
47	三宅 南帆, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 原 倫世, 山上 紘規, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者における推定塩分摂取量に関連する臨床因子の検討, 第 45 回日本高血圧学会総会, 2023 年 9 月.
48	山上 紘規, 原 倫世, 答島 悠貴, 浅井 孝仁, 三井 由加里, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 安倍 正博, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の Skin autofluorescence を規定する因子の検討, 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2023 年 6 月.
49	河田 沙紀, 金子 遥祐, 森 建介, 辻 誠士郎, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 運動習慣及び体組成が 2 型糖尿病患者受診時 HbA1c に及ぼす影響の解析, 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2023 年 6 月.
50	森 建介, 金子 遥祐, 辻 誠士郎, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者における糖尿病治療薬の年間収縮期血圧変動への影響, 第 96 回日本内分泌学会学術集会, 2023 年 6 月.
51	辻 誠士郎, 森 建介, 金子 遥祐, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者における年間腎機能変化と dehydroepiandrosterone sulfate(DHEAS)の連関解析, 第 96 回日本内分泌学会学術総会, 2023 年 6 月.
52	山上 紘規, 原 倫世, 答島 悠, 浅井 孝, 三井 由加里, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 安倍 正博, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の AGEs 蓄積に関わる臨床的因子の解析, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
53	森 建介, 河田 沙紀, 金子 遥祐, 辻 誠士郎, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の年間収縮期血圧変動における糖尿病治療薬の影響, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
54	答島 悠貴, 原 倫世, 浅井 孝, 山上 紘規, 三井 由加里, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 栗飯原 賢一: 当院におけるインスリングルーゲン/リキシセナチド (iGlarLixi) 導入症例の臨床背景および効果の検討, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
55	金子 遥祐, 河田 沙紀, 森 建, 辻 誠士郎, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の年間 HbA1c 変動における糖尿病治療薬の影響, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
56	原 倫世, 答島 悠貴, 浅井 孝仁, 山上 紘規, 三井 由加里, 倉橋 清衛, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 黒田 暁生, 遠藤 逸朗, 松久 宗英, 栗飯原 賢一: 糖尿病患者における腎糸球体および尿管障害特異的なリスク因子の臨床的検討, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
57	辻 誠士郎, 森 建介, 金子 遥祐, 河田 沙紀, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の eGFR slope における dehydroepiandrosterone sulfate(DHEAS)の意義, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.

58	河田 沙紀, 金子 遥祐, 森 建介, 辻 誠士郎, 中村 信元, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一: 2 型糖尿病患者の受診時 HbA1c における運動習慣及び体組成の影響, 第 66 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2023 年 5 月.
59	大豆本 圭, 高橋 正幸, 堀 克仁, 角陸 文哉, 佐々木 雄太郎, 上野 恵輝, 富田 諒太郎, 津田 恵, 楠原 義人, 布川 朋也, 山口 邦久, 山本 恭代, 金山 博臣, 上原 久典, 新家 崇義, 診断に苦慮した間欠性精巣捻転の 1 例. 第 110 回泌尿器科学会四国地方会, 2022 年 7 月 2 日
60	大豆本 圭, 堀 克仁, 角陸 文哉, 佐々木 雄太郎, 上野 恵輝, 富田 諒太郎, 津田 恵, 楠原 義人, 布川 朋也, 山口 邦久, 山本 恭代, 高橋 正幸, 金山 博臣, 上原 久典, 新家 崇義, 岩佐 武: 射精障害に対して Onco TESE を施行した進行性精巣腫瘍の 1 例. 第 110 回泌尿器科学会四国地方会, 2022 年 7 月 2 日
61	角陸 文哉, 大豆本 圭, 堀 克仁, 佐々木 雄太郎, 上野 恵輝, 富田 諒太郎, 津田 恵, 楠原 義人, 布川 朋也, 山口邦久, 山本 恭代, 高橋 正幸, 金山 博臣, 上原 久典, 新家 崇義: 尿路上皮癌・十二指腸浸潤に対して Enfortumab Vedotin が著効した 1 例. 第 110 回泌尿器科学会四国地方会, 2022 年 7 月 2 日

<論文発表> (英文原著)

1	Kawabata Y, Wakatsuki T, Yamaguchi K, Fukuda D, Ito H, Matsuura T, Kusunose K, Ise T, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Tsuruo Y, Sata M : Association of Microluminal Structures Assessed by Optical Coherence Tomography With Local Inflammation in Adjacent Epicardial Adipose Tissue and Coronary Plaque Characteristics in Fresh Cadavers. <i>Circ J</i> . 2023;87(2):329–335
2	Takahashi T, Kusunose K, Hayashi S, Zheng R, Yamaguchi N, Morita S, Hirata Y, Nishio S, Saijo Y, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M : Isoproterenol loading transesophageal echocardiography in atrial fibrillation. <i>Int J Cardiovasc Imaging</i> . 2023;39(3):511–518
3	Munkhjargal U, Fukuda D, Ganbaatar B, Suto K, Matsuura T, Ise T, Kusunose K, Yamaguchi K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M: A Selective Mineralocorticoid Receptor Blocker, Esaxerenone, Attenuates Vascular Dysfunction in Diabetic C57BL/6 Mice . <i>J Atheroscler Thromb</i> . 2023 ;30(4):326–334
4	Hara T, Fukuda D, Ganbaatar B, Pham PT, Aini K, Rahadian A, Suto K, Yagi S, Kusunose K, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Sata M: Olive mill wastewater and hydroxytyrosol inhibits atherogenesis in apolipoprotein E-deficient mice. <i>Heart Vessels</i> .2023;38(11):1386–1394
5	Okushi Y, Saijo Y, Yamada H, Toba H, Zheng R, Seno H, Takahashi T, Ise T, Yamaguchi K, Yagi S, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M, Kusunose K: Effectiveness of surveillance by echocardiography for Cancer therapeutics-related cardiac dysfunction of patients with breast Cancer. <i>J Cardiol</i> . 2023;82(6):467–472
6	Pham PT, Bavuu O, Kim-Kaneyama JR, Lei XF, Yamamoto T, Otsuka K, Suto K, Kusunose K, Yagi S, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Shimabukuro M, Barber GN, Sata M, Fukuda D: Innate Immune System Regulated by Stimulator of Interferon Genes, a Cytosolic DNA Sensor, Regulates Endothelial Function. <i>J Am Heart Assoc</i> .2023;12(22):e030084
7	Tserensonom M, Yagi S, Ise T, Kawabata Y, Kadota M, Hara T, Kusunos K, Yamaguchi K, Yamada H, <u>Soeki T</u> , Wakatsuki T, Sata M: Lipoprotein (a) is a risk factor of aortic valve calcification in patients with a risk of atherosclerosis. <i>J Med Invest</i> . 2023;70(3.4):450–456
8	Sogabe K, <u>Nakamura S</u> , Higa Y, Miki H, Oda A, Maruhashi T, Sumitani R, Oura M, Takahashi M, Nakamura M, Maeda Y, Hara T, Yamagami H, Fujii S, Kagawa K, Ozaki S, Kurahashi K, Endo I, <u>Aihara KI</u> , Nakaue E, Hiasa M, Teramachi J, Harada T, Abe M. Acute accumulation of PIM2 and NRF2 and recovery of β 5 subunit activity mitigate multiple myeloma cell susceptibility to proteasome inhibitors. <i>Int J Hematol</i> . doi: 10.1007/s12185-023-03705-9, PubMed 38245883
9	Hiroshima Y, Otomi Y, <u>Shinya T</u> , Otsuka H, Harada M. ^{11}C -Methionine PET/CT and ^{18}F -FDG PET/CT in the Evaluation of Adult Alveolar Rhabdomyosarcoma. <i>Mol Imaging Radionucl Ther</i> . 2023 Feb 23;32(1):62–64. doi: 10.4274/mirt.galenos.2022.96977.
10	Shimizu T, Kanazawa T, Sakura T, Shioji N, Shimizu K, Fukuhara R, <u>Shinya T</u> , Iwasaki T, Morimatsu H: Efficacy of prophylactic high-flow nasal cannula therapy for postoperative pulmonary complications after pediatric cardiac surgery: a prospective single-arm study. <i>J Anesth</i> . 2023 Jun;37(3):433–441. doi: 10.1007/s00540-023-03187-3. Epub 2023 Apr 14..

11	Yoshikawa K , Shimada M, Tokunaga T, Nakao T, Nishi M, Takasu C, Kashihara H, Wada Y, Yoshimoto T; Stapler insertion angle toward the esophagus reduces the incidence of early postoperative Roux stasis syndrome after distal gastrectomy in minimally invasive surgery. <i>BMC surg.</i> 2023 Mar 11;23(1):54
12	Yoshikawa K , Shimada M, Tokunaga T, Nakao T, Nishi M, Takasu C, Kashihara H, Wada Y, Yoshimoto T; The application of enhanced recovery after surgery in total gastrectomy: a propensity score-matched analysis. <i>World J Surg Oncol.</i> 2023 May 16;21(1):148.
13	Yoshikawa K , Shimada M, Morine Y, Ikemoto T, Saito Y, Yamada S, Teraoku H, Takao S; Clinical impact of myosteatoses measured by magnetic resonance imaging on long-term outcomes of hepatocellular carcinoma after radical hepatectomy. <i>BMC surg.</i> 2023 Sep 15;23(1):281.
14	Iwakawa Y, Nishi M, Wada Y, Yoshikawa K, Takasu C, Shimada M, Saijo Y, Matsumoto M, Oya T, Uehara H; Pleomorphic type undifferentiated gastric sarcoma, report of a case. <i>Clin J Gastroenterol.</i> 2023 Feb;16(1):20–25.
15	Okikawa S, Kashihara H, Shimada M, Yoshikawa K , Tokunaga T, Nishi M, Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T; Effect of duodenal-jejunal bypass on diabetes in the early postoperative period. <i>Sci Rep.</i> 2023 Feb 1;13(1):1856.
16	Kashihara H, Shimada M, Yoshikawa K , Tokunaga T, Nakao T, Nishi M, Takasu C, Wada Y and Yoshimoto T; The Impact of the Pre-operative Neutrophil-lymphocyte Ratio as the Predictive Marker of Post-operative Weight Loss and Improving Diabetes in Sleeve Gastrectomy. <i>J Med Invest.</i> 2023; Feb 1.2):140–144
17	Nishi M, Wada Y, Yoshikawa K , Takasu C, Tokunaga T, Nakao T, Kashihara H, Yoshimoto T, Shimada M; Utility of robotic surgery for Siewert type II/III adenocarcinoma of esophagogastric junction: transhiatal robotic versus laparoscopic approach. <i>BMC Surg.</i> 2023 May 16;23(1):128.
18	Yoshimoto T, Yoshikawa K , Nakao T, Tokunaga T, Nishi M, Takasu C, Kashihara H, Wada Y, Noma T, Shimada M; Surgical Outcomes of Gastrectomy in Hemodialysis Patients with Gastric Cancer. <i>Am Surg.</i> 2023 May 3;31348231173970.
19	Nakao T, Shimada M, Yoshikawa K , Tokunaga T, Nishi M, Kashihara H, Takasu C, Wada Y, Yoshimoto T; Visualization of the pelvic nerves using magnetic resonance imaging for rectal cancer surgery. <i>Surg Endosc.</i> 2023 Jun;37(6):4315–4320
20	Tokunaga T, Sugimoto M, Saito Y, Kashihara H, Yoshikawa K , Nakao T, Nishi M, Takasu C, Wada Y, Waki Y, Yoshimoto T, Noma T, Shimada M; Transanal lateral lymph node dissection with intraoperative hologram support in low rectal cancer. <i>Surg Endosc.</i> 2023 Jul;37(7):5414–5420.
21	Nishi M, Wada Y, Yoshikawa K , Takasu C, Tokunaga T, Nakao T, Kashihara H, Yamada S, Yoshimoto T, and Mitsuo Shimada; Prognostic impact of frailty after gastrectomy in elderly gastric cancer patients. <i>J Med Invest.</i> 2023 Aug;70(3.4):423–429.
22	Kubota K, Kono T, Shimada M, Takata A, Higashijima J, Yoshikawa K , Tokunaga T, Fujitsuka N, Fichera A; Intestinal hypomotility due to longitudinal enterotomy can be alleviated by transverse closure. <i>J Med Invest.</i> 2023;70(1.2):180–188.
23	Noma T, Nishi M, Takasu C, Wada Y, Yoshikawa K , Tokunaga T, Nakao T, Kashihara H, Yoshimoto T, Miyakami Y, Atsumi K, Uehara H, Shimada M; Conversion surgery after successful response to chemotherapy (S-1+oxaliplatin+nivolumab) in a patient with stage IV gastric cancer with peritoneal metastasis (P1, CY1): a case report. <i>Int Cancer Conf J.</i> 2023 Aug 12;13(1):11–16.
24	Kobayashi D, Kodera Y, Fukushima R, Morita M, Fushida S, Yamashita N, Yoshikawa K , Ueda S, Yabusaki H, Kusumoto T, Arigami T, Hidemura A, Omori T, Yamaguchi H, Hirono Y, Tsuji Y, Moon JH, Tomita T, Imamura H, Nakanishi K, Shimizu D, Hirakawa A, Ishigami H, Kitayama J; Phase II Study of Intraperitoneal Administration of Paclitaxel Combined with S-1 and Cisplatin for Gastric Cancer with Peritoneal Metastasis. <i>Ann Surg Oncol.</i> 2023 Nov 11. doi: 10.1245/s10434-023-14240-6.
25	Yamagami H, Hara T, Yasui S, Hosoki M, Hori T, Kaneko Y, Mitsui Y, Kurahashi K, Harada T, Yoshida S, Nakamura S, Otoda T, Yuasa T, Kuroda A, Endo I, Matsuhisa M, Abe M, Aihara K. Cross-Sectional and Longitudinal Associations between Skin Autofluorescence and Tubular Injury Defined by Urinary Excretion of Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein in People with Type 2 Diabetes. <i>Biomedicines.</i> 2023 Nov 10;11(11):3020. doi: 10.3390/biomedicines11113020.
26	Yasui S, Kaneko Y, Yamagami H, Hosoki M, Hori T, Tani A, Hara T, Kurahashi K, Harada T, Nakamura S, Otoda T , Yuasa T , Mori H, Kuroda A, Endo I, Matsuhisa M, Soeki T, Aihara K . Dehydroepiandrosterone Sulfate, an

	Adrenal Androgen, Is Inversely Associated with Prevalence of Dynapenia in Male Individuals with Type 2 Diabetes. <i>Metabolites</i> . 2023 Nov 3;13(11):1129. doi: 10.3390/metabo13111129.
27	Otoda T, Sekine A, Uemoto R, Tsuji S, Hara T, Tamaki M, Yuasa T, Tamaki T, Matsuhisa M, Aihara K. Albuminuria and Serum Tumor Necrosis Factor Receptor Levels in Patients with Type 2 Diabetes on SGLT2 Inhibitors: A Prospective Study. <i>Diabetes Ther</i> . 2024 Jan;15(1):127–143. doi: 10.1007/s13300-023-01488-0. Epub 2023 Oct 26.
28	Masuda S, Hara T, Yamagami H, Mitsui Y, Kurahashi K, Yoshida S, Harada T, Otoda T, Yuasa T, Nakamura S, Kuroda A, Endo I, Matsumoto T, Matsuhisa M, Abe M, Aihara K. Vascular Endothelial Function Is Associated with eGFR Slope in Female and Non-Smoking Male Individuals with Cardiovascular Risk Factors: A Pilot Study on the Predictive Value of FMD for Renal Prognosis. <i>J Atheroscler Thromb</i> . 2023 Nov 1;30(11):1727–1741. doi: 10.5551/jat.63987. Epub 2023 Apr 19.
29	Hori T, Nakamura S, Yamagami H, Yasui S, Hosoki M, Hara T, Mitsui Y, Masuda S, Kurahashi K, Yoshida S, Harada T, Kuroda A, Otoda T, Yuasa T, Endo I, Matsuhisa M, Abe M, Aihara K. Phase angle and extracellular water-to-total body water ratio estimated by bioelectrical impedance analysis are associated with levels of hemoglobin and hematocrit in patients with diabetes. <i>Heliyon</i> . 2023 Mar 21;9(4):e14724. doi: 10.1016/j.heliyon.2023.e14724. eCollection 2023 Apr.
30	Mitsui Y, Iizuka Y, Tanaka T, Hara T, Masuda S, Ohnishi Y, Kanai M, Kurahashi K, Yoshida S, Kondo T, Kanezaki T, Shintani Y, Yamagami H, Yamaguchi Y, Fujinaka Y, Morimoto K, Shirakami A, Aihara K, Fukumoto S, Abe M, Endo I. An attempt to create a treatment algorithm of central adrenal insufficiency using CRH test, DHEA-S and clinical evaluation. <i>J Med Invest</i> . 2022;69(3.4):287–293. doi: 10.2152/jmi.69.287.
31	Hara T, Uemoto R, Sekine A, Mitsui Y, Masuda S, Yamagami H, Kurahashi K, Yoshida S, Otoda T, Yuasa T, Kuroda A, Ikeda Y, Endo I, Honda S, Yoshimoto K, Kondo A, Tamaki T, Matsumoto T, Matsuhisa M, Abe M, Aihara K. Plasma Heparin Cofactor II Activity Is Inversely Associated with Hepatic Fibrosis of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus. <i>J Atheroscler Thromb</i> . 2023 Aug 1;30(8):871–883. doi: 10.5551/jat.63752. Epub 2022 Oct 14.
32	Tetsu Tomonari, Joji Tani, Yasushi Sato, Hironori Tanaka, Takahiro Tanaka, Tatsuya Taniguchi, Yutaka Kawano, Asahiro Morishita, Koichi Okamoto, Masahiro Sogabe, Hiroshi Miyamoto, Tsutomu Masaki, and Tetsuji Takayama. Clinical Features and Outcomes of Conversion Therapy in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma. <i>Cancers (Basel)</i> . 2023 Nov; 15(21): 5221.
33	Tetsu Tomonari, Hironori Tanaka, Takahiro Tanaka, Tatsuya Taniguchi, Masahiro Sogabe, Yutaka Kawano, Koichi Okamoto, Hiroshi Miyamoto, Yasushi Sato, Tetsuji Takayama. A case of complete response with rechallenged lenvatinib plus transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma refractory to multiple molecular-targeted agent treatments. <i>Clin J Gastroenterol</i> . 2023 Jun;16(3):438–443.
34	Reiko Yokoyama, Yasushi Sato, Fumika Nakamura, Kaizo Kagemoto, Yasuhiro Mitsui, Koichi Okamoto, Yutaka Kawano, Masahiro Sogabe, Hiroshi Miyamoto, Tetsuji Takayama. Efficacy of immune checkpoint inhibitors in patients with anorectal melanoma in association with immune-related adverse events: a case series. <i>Clin J Gastroenterol</i> . . 2023 Dec;16(6):842–847.
35	Tamotsu Sagawa, Yasushi Sato, Hiroyuki Nagashima, Kohichi Takada, Mamoru Takahashi, Masahiro Hirakawa, Kyoko Hamaguchi, Fumito Tamura, Koshi Fujikawa, Koichi Okamoto, Yutaka Kawano, Masahiro Sogabe, Hiroshi Miyamoto, Tetsuji Takayama. Hilar/mediastinal and cutaneous drug-induced sarcoidosis-like reaction associated with immune checkpoint inhibitors in metastatic colorectal cancer: a case report. <i>Front Immunol</i> . . 2023 Jul 10;14:1203621.
36	Tetsu Tomonari, Joji Tani, Chikara Ogawa, Akihiro Deguchi, Tomonori Senoh, Akio Moriya, Hiroshi Shibata, Hiroshi Fukuno, Hironori Tanaka, Takahiro Tanaka, Tatsuya Taniguchi, Masahiro Sogabe, Yutaka Kawano, Akihiro Morishita, Koichi Takaguchi, Hiroshi Miyamoto, Yasushi Sato, Tsutomu Masaki, Tetsuji Takayama. Multicenter retrospective study of initial treatment outcome and feasibility of initiating dose reduction of cabozantinib in unresectable hepatocellular carcinoma. <i>Hepatol Res</i> . 2023 Feb;53(2):172–178.
37	Yasushi Sato, Koichi Okamoto, Yoshifumi Kida, Yasuhiro Mitsui, Yutaka Kawano, Masahiro Sogabe, Hiroshi Miyamoto, Tetsuji Takayama. Overview of Chemotherapy for Gastric Cancer. <i>J Clin Med</i> . 2023 Feb 7;12(4):1336.

38	Osamu Uehara, Norihiro Nakamoto, Daichi Hiraki, Durga Paudel, Nodoka Sugiyama, Tetsuro Morikawa, Koki Yoshida, <u>Yutaka Kawano</u> , Tsuyoshi Shimo, Yasushi Furuichi, Hiroko Miura, Yoshihiro Abiko. Effects of prolonged stimulation with heated tobacco products (Ploom TECH+) on gingival epithelial cells. J Periodontal Res. 2023 Jun;58(3):553-563.
----	--

(和文総説)

1	<u>河野 豊</u> : 食べ過ぎだけではない肥満の理由. 生物工学会誌 第 101 巻第 1 号 33.2023.
---	---

(和文原著)

1	堀 太貴, 安井 沙耶, 細木 美苗, 山上 紘規, 乙田 敏城, 湯浅 智之, 栗飯原 賢一, 滝下 誠, 安倍 正博, 中村 信元. 初発時にCMVとHHV-6の再活性化と頭蓋内多発腫瘍を認めた成人T細胞白血病リンパ腫. 臨床血液 64(4):283-289,2023.
2	新家 崇義. PET を用いた肺癌画像診断と今後の展望. 四国医学雑誌 第 79 巻第 1.2 号 June7,2023.

<著書>

1	中村 信元, 三木 浩和, 安倍 正博【最新の骨粗鬆症学(第2版)-骨粗鬆症学の最新知見-】続発性骨粗鬆症の診断と治療 抗悪性腫瘍薬に伴う骨粗鬆症..日本臨床 81 巻増刊 1 最新の骨粗鬆症学 Page580-584(2023.01)
2	中村信元, 三木浩和, 安倍正博:【腎臓症候群(第 3 版)-その他の腎臓疾患を含めて-】各種病態にみられる腎障害 造血器疾患 多発性骨髄腫. 日本臨床(0047-1852)別冊腎臓症候群Ⅲ Page124-130(2022.10)
3	中村信元, 三木浩和, 安倍正博:【骨髄腫と類縁疾患-全身をみわたす診断・治療】Overview 多発性骨髄腫の発症・進展機序, 内科(0022-1961)130 巻 4 号 Page691-694(2022.10)

4 診療面

(1) 徳島大学病院での診療

① 内分泌・代謝内科

本講座特任教授の栗飯原は、再来外来診療を月 1 回(第 4 木曜日)、担当しており、糖尿病および内分泌・代謝疾患(間脳下垂体疾患・甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・脂質異常症・高血圧症・尿酸代謝異常など)の専門診療を行っています。入院が必要な患者さんの診療に関しては、血液・内分泌代謝内科学スタッフのサポートを得て外来と緊密な連携のもとで、治療を行っています。

② 血液内科

徳島大学病院血液内科において、本講座特任准教授の中村は外来診療を週 1 回(木曜日)、担当しており、血液疾患や HIV 感染症などの専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。入院が必要な患者さんの診療に関しては、血液・内分泌代謝内科学スタッフのサポートを得て外来と緊密な連携のもとで、治療を行っています。

③ 循環器内科

本講座特任教授の添木は外来診療を週 1 回(火曜日)、担当しており、循環器、特に不整脈領域の専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患患者さんの予約・紹介受診が可能です。また、入院加療としては、不整脈チームのチーフとして、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈・致死性不整脈に対するペースメーカー・植込み型除細動器(ICD)植込み術、難治性心不全に対する心臓再同期療法(CRT)などの高度医療に携わっています。

④ 消化器内科

本講座特任准教授の河野は、外来診療を週 1 回(金曜日)担当しており、消化器、特に肝臓疾患の専門診療を行っています。再来患者さんの診療に加え、新患者さんの予約・紹介受診が可能です。肝炎の原因診断および治療、肝癌のインターベンション治療(ラジオ波焼灼術、肝動脈塞栓術)や化学療法を行っています。

⑤ 食道・乳腺甲状腺外科

本講座特任助教の坂本は木曜日に甲状腺外来を担当しています。再来患者さんの診療に加え、新患者さんの予約・紹介受診が可能です。甲状腺に関しては、内分泌・代謝内科・放射線治療科と連携のもと、良性疾患から悪性腫瘍まで幅広く診療に当たっています。手術は月曜日・水曜日に肺癌手術を、火曜日に甲状腺手術を主に行っております。肺癌領域ではロボットを用いた低侵襲手術を積極的に導入しております。

⑥ 放射線科

本講座特任教授の新家は、月・火・水曜日は午前・午後、木曜日は午後、金曜日は午前に外来診療を担当しています。全身の臓器に生じる、良性病変から悪性腫瘍まで幅広い疾患を対象としており、CTやMRI、核医学、PET/CTなどマルチモダリティな総合画像診断を行い、読影レポート作成を行っております。

⑦ 消化器外科

本講座特任教授の吉川は月曜日に外来を担当しています。手術は火曜日・木曜日に胃癌手術を主に行っており、最近ではロボットを用いた低侵襲手術を積極的に導入しています。また肥満症に対する減量手術も行っており、内科的な治療が困難な症例に対して内分泌内科と連携しながら治療をおこなっています。

(2) JA 徳島厚生連阿南医療センターでの診療

阿南医療センターでは、下表のスケジュールで初診および再来患者の外来診療を担当し、入院治療は常勤医と連携しながら行なっています。また循環器内科では、心房細動や発作性上室性頻拍に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植込み術、植込み型心電計、経食道心エコーなどの特殊検査も施行しています。このように、地域においても徳島大学病院と同様に高度な循環器診療を受けられるシステムづくりを目指しています。血液内科では、外来での積極的な外来化学療法その他、必要に応じて入院診療を行っています。消化器内科では、ウイルス肝炎の診断・治療や、肝癌で入院が必要な患者さんは、徳島大学消化器内科と連携して診療を行っています。

	月	火	水	木	金
糖尿病内科・ 内分泌代謝内科	湯浅 智之	乙田 敏城	湯浅 智之 栗飯原 賢一	乙田 敏城	栗飯原 賢一
循環器内科					添木 武
血液内科			中村 信元		
消化器内科			河野 豊		
乳腺・甲状腺外科					坂本 晋一
消化器外科			吉川 幸造		
放射線科				新家 崇義	

(3) 美波町国民健康保険美波病院での診療

阿南医療センターに対する美波病院から診療支援要請に対応する目的で、本講座業務の一環として、栗飯原が火曜日の午前、乙田が金曜日の午後に内科外来を行なっています。専門診療が必要な患者に対しては、阿南医療センター、県立海部病院、徳島赤十字病院、徳島大学病院に紹介し、診療連携体制をとっています。

5 社会貢献

講演活動・会議開催・患者会活動など

1. 2023 年 4 月 20 日
第 32 回徳島腎と薬剤研究会
「心肝腎臨床指標に基づいた糖尿病包括診療-腎機能低下リスクをどうとらえるか-」
(講師: 栗飯原賢一)
2. 2023 年 4 月 22 日
第 333 回徳島ワンデーウオーク・徳島街道 59
「フレイルとメタボ予防のための運動療法の意義とその効果」(講師: 栗飯原賢一)
3. 2024 年 4 月 27 日
Online-Symposium 糖尿病と非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の関係を再考する
「NAFLD 合併2型糖尿病の診断と治療の選択肢」(講師: 栗飯原賢一)
4. 2023 年 6 月 7 日
みんなで考える高松南エリアの循環器疾患
「心房細動診療のニュートレンド」(講師: 添木武)
5. 2023 年 6 月 8 日
保存期腎性貧血 web セミナー in 四国中央
「糖尿病診療における貧血のとらえかた」(講師: 栗飯原賢一)
6. 2023 年 6 月 10 日
Shikoku university summit
「CRT 治療の目指すべき方向」(ディスカッサント: 添木武)
7. 2023 年 6 月 15 日
CLL 治療 Web seminar2023 (パネリスト: 中村信元)
8. 2023 年 7 月 26 日
徳島県南部連携感染症 web セミナー2023 (特別講演講師: 中村信元)
9. 2023 年 8 月 25 日
オルプロリクス発売 9 周年記念講演会 (パネルディスカッション: 中村信元)

10. 2023 年 8 月 30 日
血友病性関節症カンファレンス（基調講演演者：中村信元）
11. 2023 年 9 月 2 日
ベックマンコールター関西 FCM ユーザー会（特別講演：中村信元）
12. 2023 年 9 月 3 日
令和 5 年度 第 1 回 徳島県肝炎医療コーディネーター養成研修会
「肝疾患診療について(肝がん・重度肝硬変)」(講師：河野 豊)
13. 2023 年 9 月 10 日
徳島市糖尿病サポーター(Tokushima City Certified Diabetes Supporter:TCDS)養成研修会
「運動療法の工夫」(講師：栗飯原賢一)
14. 2023 年 9 月 12 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「健診結果から分かるあなたの未来～できることから始めよう～」(講師：湯浅智之)
15. 2023 年 9 月 22 日 名古屋
第 3 回 TMDSOG meeting
「胃癌におけるロボット手術と化学療法」(講師：吉川幸造)
16. 2023 年 9 月 22 日
徳島県南部地区薬剤師学術講演会
「糖尿病合併症及び併存症を考慮した糖尿病治療～医療連携を踏まえて～」
(講師：乙田敏城)
「2 型糖尿病患者における予防医療としての脂質管理と NAFLD への対策」
(講師：栗飯原賢一)
17. 2023 年 9 月 28 日
徳島CKD病診連携講演会
「糖尿病性腎臓病制御を中心に考えた糖尿病診療」(講師：乙田敏城)
18. 2023 年 9 月 30 日
第 23 回心電図判読セミナーin 島根(日本不整脈心電学会主催)
「12 誘導心電図を判読するうえでのポイント：特発性病態編」(講師：添木武)
19. 2023 年 10 月 13 日
令和 5 年度第 2 回ひまわり会(糖尿病患者会)
「糖尿病患者さんの感染予防ガイド」(講師：栗飯原賢一)

20. 2023 年 10 月 19 日
Cryo Web Discussion
「クライオアブレーションの有効活用」(ディスカッサント: 添木武)
21. 2023 年 12 月 21 日
徳島県南部血液疾患診療連携セミナー (特別講演: 中村信元)
22. 2023 年 12 月 26 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「健診結果から分かるあなたの未来～できることから始めよう～」(講師: 湯浅智之)
23. 2024 年 1 月 12 日
Cryo Ablation Summit
「Cryo Balloon の有効性と安全性の検討」(ディスカッサント: 添木武)
24. 2024 年 1 月 18 日
第 31 回不整脈治療研究会
「当院におけるカテーテルアブレーションへの取り組みと今後の展望」(講師: 添木武)
25. 2024 年 1 月 21 日 徳島県 日和佐
住民公開講座
「阿南医療センターにおける体にやさしい腹腔鏡手術」(講師: 吉川幸造)
26. 2024 年 1 月 23 日 阿南健康づくりセンター
阿南市特定保健指導対象者講義
「健診結果から分かるあなたの未来～できることから始めよう～」(講師: 湯浅智之)
27. 2024 年 1 月 26 日 藍住町総合文化ホール
健康づくり講座
「糖尿病を知る: あなたの健康を守る最善の選択とは?」(講師: 湯浅智之)
28. 2024 年 2 月 14 日
Freezor Symposium in 中四国
「安全性と有効性向上の Tips」(ディスカッサント: 添木武)
29. 2024 年 2 月 29 日
パルモディア XR 錠発売記念 Web 講演会
「2 型糖尿病における代謝異常関連脂肪性肝疾患: MASLD と脂質管理の意義」
(講師: 栗飯原賢一)
30. 2024 年 3 月 7 日 徳島保健所

令和 5 年度糖尿病療養指導研修会

「災害に対する糖尿病患者の心得と対処法」(講師:栗飯原賢一)

31. 2024 年 3 月 10 日

第 268 回徳島医学会学術集会 市民公開シンポジウム

「ウイルス感染症の画像診断」(講師:新家崇義)

31. 2024 年 3 月 19 日 阿南健康づくりセンター

阿南市特定保健指導対象者講義

「健診結果から分かるあなたの未来～できることから始めよう～」(講師:湯浅智之)

32. 2024 年 3 月 令和 5 年度徳島県糖尿病療養指導士研修会

「糖尿病治療の治療指針(最新版)」(講師:湯浅智之)

その他

1. 厚生労働行政推進調査事業費「肝炎等克服政策研究」令和 3 年度～

「オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究」研究分担者

2. 厚生労働行政推進調査事業費「肝炎等克服政策研究」令和 5 年度～

「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」研究分担者

3. 2023 年 10 月 28 日

日本不整脈心電学会第3回中国四国地方会(広島)

添木が指導した高橋智子先生が Best Abstract Award Session 優秀演題賞を受賞

6 活動写真

第98回中国四国外科学会



第23回心電図判読セミナーin島根 (日本不整脈心電学会主催) セミナー後に演者と座長での撮影



日本不整脈心電学会第3回中国四国地方会 添木が指導した高橋智子先生がBest Abstract Award Session優秀演題賞を受賞



第31回不整脈治療研究会 WEB配信の様様

パルスフィールドアブレーションとは？

非可逆的な電気穿孔法（electroporation）により細胞膜を破壊し
その透過性並びに恒常性を失わせる！
→心筋細胞のアポトーシス・ネクローシスを促す。

※パルスフィールドアブレーションは本邦未承認です。 Verma A, et al. Circulation. 2023;147(19):1422-1432.

阿南医療センター初期臨床研修医 三宅南帆先生

第268回徳島医学会学術集会
第30回若手奨励賞受賞



第268回徳島医学会徳島医学会賞
(森建介先生)



徳島県南部地区薬剤師学術講演会



令和5年度ひまわり会(糖尿病患者会)



第268回徳島医学会
市民公開シンポジウム



第96回日本内分泌学会学術総会



第333回徳島ワンデーウォーク・徳島街道59



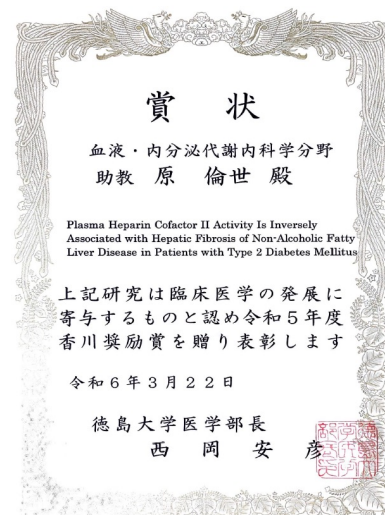
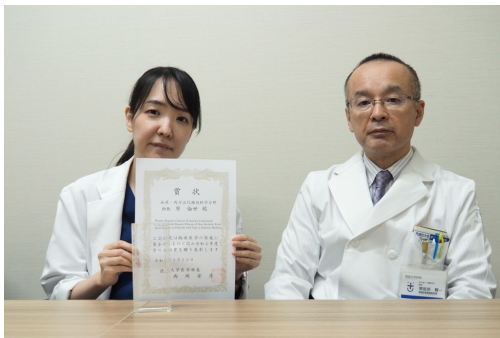
第66回日本糖尿病学会年次学術集会



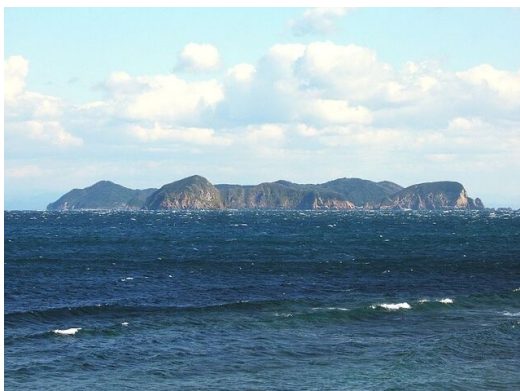
第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会



共同研究者 血液・内分泌代謝内科学
原倫世先生 令和5年度香川奨励賞受賞



伊島での離島診療



糖尿病合併症と高血圧を考える会

